天長節の式場

田中貢太郎

青空文庫

大正十一年十月三十日、横浜市横浜尋常高等石川小学校では、例年の如く天長節の勅語奉読式を挙行した。

その翌日になって、第四年生一組の受持訓導S君は、同級生徒に向って、

「皆さん、あなた方のお友達でありました石井茂男君が、お気の毒にも、一昨日の日曜に、歿くなりました」

と云ったところで、生徒たちは承知しなかった。

「先生、石井君は、昨日式場へ来ておりました」

「嘘です、死んだなんて嘘です」

「そんな事はありません、確かに歿くなりました」

「否え、嘘です、昨日、天長節に来ておりました」

そこでS君も不思議に思って詳しく訊いてみた。

「昨日、式の始まる前に、僕と銀杏の枝が折れてる話をしました」

「運動場で草履を入れた袋を振り廻していました」

「石井君は帽子の庇が破れたのを、糸で綴って冠っていました」

と云うような事を云った。それで、

「それでは、石井さんの体に触った方はありませんか」

と云って訊いたが、それは何人も触ったと云う者はなかった。

「それでは、石井さんを見て、変に思った方はありませんか」

と云ってみたが、それも何人も変に思ったと云う者がなかった。そこでS君は、石井の死亡した事情を談したので、生徒たちは初めて石井の死を知り、天長節に見たのはその陰影であったと云う事を知った。

石井は二十九日の日曜日の午後、山下町の税関桟橋へ一人で魚を釣りに往っていた。その時そこを監視していた警官の一人は、少年の釣魚に来ている事を見ていたが、ちょっと他へ眼をやっているうちに、その姿が見えなくなったので、どうしたのかと思って、その場へ往ったところで水の上に下駄と帽子が浮んでいた。警官は驚いて人を呼び集め、水底を捜索した結果、その死体を発見して警察署へ運んだが、翌日三十日の午前八時になって、子供を尋ねあぐんだ石井の父親が捜索願に来たので、はじめて石井の死が判明した。

青空文庫情報

底本：「伝奇ノ匣6　田中貢太郎日本怪談事典」学研M文庫、学習研究社
　　2003（平成15）年10月22日初版発行
底本の親本：「新怪談集　実話篇」改造社
　　1938（昭和13）年
入力：Hiroshi_O
校正：noriko saito
2010年10月20日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

天長節の式場

田中貢太郎

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/